

令和8年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第2回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

■第2回 課題2（春日山遊歩道北部～若草山）

実施日：2026年5月9日（土）9:00～14:00

参加者：20名（ESD原論：14名）*欠席1名

教職員：杉山、河野、中澤

概要：春日山遊歩道を抜けて若草山山頂まで歩きます。初夏の春日山を楽しみながら魅力と課題に触れます。

スケジュール	
9:00	春日大社国宝殿 集合
9:20	一言神社、藤棚、水谷神社
9:30	春日山遊歩道入口（カラスザンショウ、イヌガヤ、カヤ）
9:40	フジ、天然記念物標柱、洞の仏頭石
10:00	モミとナギの比較、月日磐
10:10	ムラサキシキブとヤブムラサキ、ツクバネガシ倒木のギャップ、植生保護柵
10:40	五感のたいそう、森でねころぶ
11:10	ルーペで観察・タゴガエルの声を聞く
11:20	春日山遊歩道を歩きながら樹木・植物・動物等について解説
12:20	若草山山頂到着・昼食休憩
12:50	若草山山頂（鶯塚古墳）・若草山下山・二重目より奈良公園の景観を確認
13:30	若草山・野上神社・地藏菩薩像
14:00	解散

■概要報告

今回は「ESD ティーチャープログラム」の学生の参加はなく、「ESD 原論」の履修学生のみを対象としたフィールドワークとなりました。冒頭、前回同様に「誕生季節」でグループ分けを行い、出身地や本日の期待などを共有する自己紹介からスタートしました。

春日大社国宝殿前から出発し、境内の末社や藤棚を巡りながら水谷神社へ。水谷川の源流を抱く春日山原始林と、上水谷神社に関する解説を通じて、この森が「神域」として守られてきた歴史的背景について理解を深めました。

遊歩道に入ってから、カラスザンショウやイヌガヤなどの樹木を紹介。境内で見たフジとの比較や、外来種として課題となっているナギ、春日山を代表するイチイガシなどを観察しました。あわせて仏頭石や月日磐（つきひいわ）などの史跡についても解説し、春日山の文化的価値と自然環境の価値を多角的に学びました。その後、森林更新の阻害要因となっているシカの採食圧について、植生保護柵を例に挙げながら、現状の課題への気づきを促しました。

当日は快晴に恵まれましたが、森の中は木漏れ日が心地よく、涼しさを感じる気候でした。五感を

ひらく体操の後は、5分ほど地面に寝そべり「森の一部になる体験」を行いました。最初は戸惑う様子も見られましたが、静かに森の気配を感じる貴重な時間となりました。

また、ルーペを用いた微細な観察では、2人1組でコケや葉の細部をのぞき込み、発見を共有し合う姿が見られました。運よくタゴガエルの鳴く姿を観察することもでき、日常では見過ごしがちな自然の面白さを体感する機会となりました。

後半は、台風による倒木が森の更新に与える影響や、ムササビの食痕、タヌキのため糞といった動物たちの痕跡を確認しながら歩を進めました。原始林を抜けた先の若草山山頂では、ちょうど満開を迎えたコジイの花が山を彩る美しい景色が広がっていました。

山頂の鶯塚（うぐいすづか）古墳を確認した後、奈良盆地を眼下に眺めながら下山。二重目から望む東大寺大仏殿や、山頂から近鉄奈良駅前まで途切れることなく続く「緑のつながり」を意識してもらったのち、長い階段を降りて終了しました。

■写真

	
みみをすます	森でねころぶ
	
ルーペを使って観察	石の間で鳴くタゴガエル
	
苔むした倒木	妙見宮